

入札監視委員会における検証概要	
委員の質問・意見	唐津市の回答
<p>1 令和4年8月から令和4年12月までの入札又は契約手続きの運用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前年と比べて、建設工事競争入札の件数が少ないとのことだが、これは入札案件自体が少なかったということか、それとも入札が成立しなかったからか。 ● 以前から不調発生率が高いのか。 ● 不調の理由をどのように考えているか。 ● 工事件数自体は多く、昨年度より少ないとは言っても、昔から比べれば多い。業者の数も増えてきていると思うが、過当競争の状態にはないということだと思う。 <p>2 建設工事等競争入札状況の検証について</p> <p>(1) 唐津市浄水センター細目除塵機取替工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今回の工事は更新ということで、新しいものに取り替えるということか。これはそもそもど 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料1により事務局から説明 ○ 前年と比べて入札案件自体が少なかったためである。昨年度の同時期は災害復旧工事が多かったため件数が増えた。 ここに示している件数は、入札が成立したものだけである。 ちなみに入札不調の件数は、ここ最近増加傾向にある。令和5年3月10日現在の状況であるが、建設工事で359件中、55件が不調であった。不調発生率は15.3%で、決して低い数字ではない。 ○ 令和3年度の発生率が10.9%、403件中、不調が44件で、高い傾向にある。 ○ 入札参加要件を満たしていた業者に、入札後に聞き取りを行うと、応札を見送った理由のほとんどが人手不足であり、作業員や技術者、現場代理人の不足が非常に深刻であると認識している。 ○ 当初工事を行った業者は、今回受注した会社と同じである。

<p>この会社が設置したのか。当初設置した会社と同じであっても悪くはないと思うが、落札者は当初設置した会社と同じか。</p> <p>● 今後、このような工事（施設の更新工事）が多くなると思われるため、安定的に更新工事ができるように業者においても技術者の育成が重要になってくる。</p> <p>なぜ一者応札なのかと思ったが、部分的に更新を行う場合は、新たに参入するのは難しいというのが実態ではないかと思う。</p> <p>● 除塵機とは、この機械全体のことか。</p> <p>● この機械のメーカーはどこか。</p> <p>● このような機械を作っているところは少ないのか。</p> <p>● 結構大きな機械なので、1億円くらいすると思われるが。</p> <p>● 機械そのものが高いため、採算が合わず、応札しないところが多かったのではないかと思うが、そのあたりはどうか。</p> <p>● 既製品を持ってくるのではなく、過去に設置したものを計測し、設計図に合わせて製作すると思うが。</p> <p>● 同じような施設は市内にどれくらいあるか。</p>	<p>○ 除塵機は、浄水センターに入ってくる汚水に混入している汚物、例えばタオルなど、そういったものを取り除く機械のことで、今回の工事では、その一式（機械全体）が除塵機になっている。</p> <p>○ メーカーは今回落札した業者になる。</p> <p>○ 他にもある。</p> <p>○ 2基で横6メートル、高さ10メートルくらいになる。</p> <p>○ 応札しなかった理由の聞き取りをしたなかでは、採算が合わないという話はなかった。技術者不足との回答が多かった。</p> <p>○ そのとおりである。</p> <p>○ 大小あるが、一番大きいものは今回工事を行った浄水センターになる。そのほかに40施設くらいある。</p>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ● 今回と同じようなケースで、佐賀県の有明沿岸の排水機場ポンプの場合は、設置した業者の一者応札が続き、高額だったため問題になり、それ以降は随意契約にしたのではなかったかと思う。ポンプの数が多かったため、そういう処理のほうがやりやすいだろうという話になったが、唐津市の今回のような施設がそんなにたくさんあると思わなかった。40施設程度あるということであれば、随意契約の検討もあるかと思ったため施設の数をお尋ねした。 ● 長期的に見ればそのような考えもあるかと思うが、他の業者でも製作しているということである。しかし、なかなか簡単に変えることも難しく、ほとんど同じ業者が作っているということだと思う。 ● 競争のしようがないのだと思う。無理に、競争するという前提に立つことで、奇異に映ることもあるのではないか。 ● その時々で業者側も多少考えて、以前の設計書があるため、設計料は少なく済むなどの理由で応札してくれればよいが、当初設置したところと同じ業者が高率で落札するとなると、やはりどうなのか、という話になる。今後、こういった案件（施設の更新）が多く出てくるのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スtockマネジメント計画に沿って更新を進めているため、今後もこのような機械の更新は出てくる。
<p>(2) 岩屋汚水枝線舗装復旧（4-3）工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特別な工事ではないように思うが、競争が働いてないと感じ、審議対象とさせていただきたい。やはり年度後半になると、どうしてもこうなってしまうのかもしれないが、もう少し余裕のある時期に発注できれば、落札率をもう少し抑えられるのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのとおりである。

<ul style="list-style-type: none"> ● 下水道工事が終わった後に発注しているため、このような時期になったのだと思うが、これは掘った後をきれいに舗装するということか。 ● 辞退している業者が多く、これをどう考えるかだが、端的に言えば儲からないからではないかと思う。時代は変わってきている。人手不足や資源が高騰している中で、業者にとってウィンウィンの関係ではない状況に陥っているのではないかと思う。見積額は決まっているのかもしれないが、そのあたりの見直しなど、時代に応じて変えていく必要があるのではと感じる。舗装工事に関していえば、何十か所も色々な業者が施工すると無駄も多いのではないかと思う。年度舗装計画などに沿って、地域ごとに受注してもらおうといった形である程度集中して、コストを抑えられるようなやり方ができないのだろうか。 ● 業者の数は減少傾向にあるのではないか。 ● そのような中で、工事の発注が金額的に細分化され過ぎているのではないかと思う。ある程度の金額で工事をまとめて発注することで、業者側も受注しやすくなるのではないか。 ● 無理があるというのは、そういうしきたりの中でやってきただけではないのか。無駄なことは改革すべきであると思う。また、先ほど説明にあったように省庁が違うのであれば、庁内の所管課で考えて、地域ごとにまとめて入札をす 	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのとおりである。 ○ 今回上がっている舗装案件は、下水道工事に伴うものだが、舗装工事全体で考えると、工事の発注課が例えば道路整備であったり、道路維持であったり、上下水道、都市計画などいろんな部署で舗装の案件を発注している。そうした中で、委員からのご提案は、例えば唐津を4つのエリアに分けてというようなことだと思うが、舗装に限らず建設工事全体において、年度当初に概算でだいたいいつの時期にこれぐらいの量を発注するといった「発注見通し」を市のホームページで公表している。そうした中で、業者側がそれを確認し、受注計画を立てられていると思う。そのような中で、エリア分けをしてしまうと、不信感などを持たれる恐れもあると考えている。発注者としては、発注見通しを事前に公表しているのも、それらの情報をもとに業者間での競争が働くことが望ましいのではないかと考えている。 ○ そのとおりである。 ○ ご意見の内容は理解できるが、工事の実施に国の補助金等を活用している関係で、省庁が違う場合、合算して一つの設計にまとめて発注するのは難しい。 ○ 今後、考えていく必要があると認識している。
--	---

<p>るなど、そういった対応ができるかといいのではないか。手間が金額に見合わない状況では、業者側の受注意欲が湧かないのではないか。</p> <p>● 市内をいくつかの地区に分けて、ある程度の金額で工事をまとめて発注することで、業者が受注しやすくなるのではないかと、といったご意見だったかと思う。省庁が違えば補助率などに関わってくる場合もあるかと思うが、市の裁量でできる範囲で対応するといったことも考える必要があるのかもしれない。</p> <p>(3) 唐津城石垣再築整備Ⅱ期(2-2工区)工事</p> <p>● 2-2工区ということで、過去にもこの委員会の審議案件に上がったが、今回もこれまでと同じ業者が落札しているのか。</p> <p>● 特殊な工事であるため、対応できる業者が限られているということは理解できるが、逆に、唐津市のように城郭を今後も引き続き保存していかなければいけないのであれば、市内や県内の業者で、そのあたりの対応がすぐできる業者を複数持っておくということも、大事な観点ではないかと思う。ある特定の業者に頼らなければいけないといったことがないように、今後はそういうことも踏まえていかれたらいいのではないかと思う。</p> <p>● 図面で黒く網かけになっている所が今回の工事箇所、今回の工事、最後の説明であったが、そのほかの部分は大丈夫なのか。</p> <p>● 工事内容としては、鉄筋入れたアンカーでやって、その上に石垣を並べているという感じか。</p>	<p>○ 過去の工事と同じ業者が落札している。</p> <p>○ はい。</p> <p>○ アンカーは石垣の直下の部分、支持部分に杭のようなかたちで埋め込むものと、その更に下の部分を形成する法面部分、法面の補強として鉄筋挿入工の150本を入れて、構成</p>
---	---

<p>● 大規模な修復工事は今回で終了するとのことであったが、今後、次の工事の時に、わざわざ県外の業者を呼ばなくても、県内、市内の業者ですぐに補修できるというのは理想的だと思う。</p> <p>● 地盤改良というのは、下の地盤ではなく、石垣の裏に連続繊維補強をやるということか。</p> <p>(4) 工業用水計装設備等更新工事</p> <p>● 今回受注した業者はA級か。</p> <p>● 前に審議した案件（岩屋汚水枝線舗装復旧）は1者を除いてほとんど辞退で、今度は全社入札ということで、どういった理由なのだろうかと思った。</p> <p>1,070万円の予定価格であれば、受注意欲が高ければ900万円台ぐらいで応札するのでは思ったが、落札率が高い。9者も応札しているのに、ほとんど同じで数万円というのはいかがなものかと思う。</p> <p>● 機械を持ってきて据えかえるだけなのではないか。そうであれば、手間暇を考えると既製品を取り替えるのであれば、はるかに手間が楽である。やはり価格の問題だけではなく、工事の内容によって人件費や工事の期間なども影響しているのではないかと思う。</p>	<p>する地盤の補強になる。</p> <p>○ 今回の工事は1億円を超えるもので、石垣だけではなく、地盤改良などと複合して施工する工事となっており、金額や施工管理の観点から、市外のゼネコンを対象にした入札になったが、唐津城石垣再築工事の中でも、過去、1,000万円、2,000万円程度の石垣修復のみの部分については、市内の造園業者を対象に発注している。</p> <p>○ 連続繊維は、石垣の根の部分に押さえ補強的に使っている。アンカー等は、石垣のその直下の杭的な役割として、また鉄筋挿入工が法面全体的な押さえつけとして、法面の安定のために使っている。</p> <p>○ そのとおりである。</p> <p>○ 電氣的な配線作業はあるが、工事自体は、メーカーが作った製品を取り付けることになる。</p>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ● 意見の趣旨は同程度の金額の工事なのに、一方は全員が応札し、一方はほとんどが辞退している。工種が違うということは承知の上だが、やはり工期や人件費の問題が関わってくるのではないかと思う。 ● 自分としては9者も入札に参加しているのに落札率が高く、業者側にやる気が見られないと思った。 ● 機械の値段と人件費のシェアがどれぐらいなのかというのがわかれば、なおよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ご意見のとおり工事の内容としては施工しやすく、かつ金額的にも業者の納得が得られるものだったのではないかと思う。 ○ 1点補足すると、1者を除いてほとんどが辞退された工事は舗装工事で、このような工事は国や県も発注している。国・県の工事を受注しているため、人手不足などもありなかなか市の工事には手を挙げられないといったこともある。一方、こちらは電気工事で、その点において時期的に受注をしやすい環境にあったのかもしれない。
<p>(5) 米飯用食缶（西部学校給食センター（仮称）運営用）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 資料1 物品一覧表のNo.13から16は同じような食器類を発注している。用途が違うため別々発注しているようだが、結果的には同じ業者が落札している。市内業者から徴取した参考見積をもとに予定価格を設定したとのことだが、落札業者も参考見積に参加したのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参考見積は3者から徴取したが、参考見積を提出した業者とは別の業者が落札した。
<ul style="list-style-type: none"> ● 全く別ということか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのとおりである。
<ul style="list-style-type: none"> ● 参考見積を出した業者の価格が要するに高かったということか。過去の案件では、参考見積に参加した業者が実際の入札では、もっと低い金額で応札し、落札したといった事例もあったかと思うが、今回はそうではなかったということか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのとおりである。

<ul style="list-style-type: none"> ● 結果的にきちんと納入されたのか。 ● 既存の古いものは廃棄するのか。 <p>(6) 箸・スプーン用カゴ（西部学校給食センター（仮称）運営用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● この案件も参考見積を提出した業者と落札者は別の業者か。 ● 工事の入札に関しては予定価格付近に入札額が固まっていたが、この案件は予定価格と落札額との開きがとても大きい。予定価格の設定が適切ではなかったのではないかと。物品購入に関しては、落札率70～80%が多いのではないと思うが、この案件は60%台で、予定価格の設定が適切になされたのかという疑問がある。 民間企業は直接メーカーから購入できるものは直接購入するので、予定価格の考え方が違うように思う。そういう意味では、落札業者は受注意欲が高かったということだと思うが、直接メーカーから購入することも含めて、予定価格をもう少し考え直した方が良いのではないと思う。 ● これは、受注者が製作して納入するのか。 ● 既製品でこんなに差が出るという点に疑問が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 納入期限は令和5年7月31日までとしている。現在、建物の建設が進んでいる最中であり、建設完了と同時期に納品を行うスケジュールになっている。 ○ 基本的に既存の別の給食センターで使っていた物は古くなっているため、新しい物と入れ替えになる。 <p>○ そのとおりである。</p> <p>○ 予定価格の件については回答文にも記載しているが、入札を実施した頃は、原材料高騰、価格高騰の真っ最中で、もちろん参考見積として徴取した業者の価格も参考にしているが、こういった原材料高騰最中に予定価格を下げる、設計金額を考えるということがなかなか難しい状況であった。そのため予定価格については、予定価格超過にならないように配慮した結果となっている。また、落札率についても、先に説明した米飯用食缶が、73.06%、今回の箸・スプーン用カゴが66.98%で、確かにスプーン用カゴが低くなっている。低い分については、企業の受注意欲が高かったと推測している。</p> <p>○ 既製品の購入である。</p> <p>○ その点については、資料1の15ページの13番から16ページの22番までがいわ</p>
--	---

<p>● 資料1を見ると、1つの業者がまとめて落札されており、そのような点では競争が働いていると思う。</p> <p>(7) 唐津産品魅力発信業務</p> <p>● 選定経緯については理解できたが、PRの内容などは受注者に丸投げか。それとも市と受注者間で協議しながら進めたのか。</p> <p>● ちなみにインフルエンサーの選定も受注者が行ったのか。</p> <p>● これはいつまでやるのか。</p> <p>● 市が関わりながら事業を進めるとのことだったが、どの程度関わったのか。</p>	<p>ゆる給食センター関係の物品購入になっているが、米飯用食缶が73.06%で70%、60%台があり、21番に箸・スプーン用カゴが66.98%となっており、このあたりは各業者の仕入れ先などの状況も影響があったのではないかと思う。</p> <p>入札通知を出す前に予定価格を考える際は、価格高騰ということが頭にあった。予定価格については参考見積も参考にした上で、高めの設定になった。</p> <p>○ 業務の実施体制について、何をやるかについては受注者からの提案のあと、市と受注者間で協議し、内容を固めて実施した。</p> <p>○ インフルエンサーの選定も受注者が選定した内容を市が確認し、了承した。</p> <p>○ 契約は令和5年3月31日までである。</p> <p>○ 最優秀者以外の業者の提案では、オンライン上でのやりとりが多かったが、最優秀者の提案は、コロナ禍ではあったが、首都圏の大型集客施設などでインフルエンサーによる公演を実施し、その内容をオンラインで配信するなど、リアルとオンラインとを上手く活用することで、より効果的に情報発信を行った。首都圏でのPRの際は市の職員も現地に行き、インフルエンサーとトークショーを行ったり、唐津焼の魅力に関してはインフルエンサーにも情報提供は行ったが、やはり職員</p>
---	--

<p>● さまざまな催しによって経済効果につなげる企画だと思うが、民間業者に丸投げしてしまうのはいかがなものかとは思ひ、市の関わり方をお尋ねした。業者に丸投げすることで、市の意図していない内容になる恐れもある。業者を選定した市にも責任がある。特に最近佐賀県でも唐津市でも、企画ものを企画会社に発注されているが、企画する本当の大本は市なので、市が口出しできるような契約にしなければいけない。</p> <p>● 唐津焼に関しては、若手作家が頑張っていて、非常に伸びている。ある若手作家は情報を世界中に発信しており、中国のバイヤーが買い占めに来ているようである。これはチャンスで、伝統的な唐津焼ともう一つ、若手作家が何十人かいるので、その人達を定期的に紹介しながら継続して取り組んでいくと、かなり広がるのではないかと思う。もう一つは、唐津焼会館を唐津に作って、唐津の人が日常的に使えるというようなものを進めていかなければいけないと思う。唐津焼について情報発信する際は、若手作家を是非登用していただきたい。</p> <p>(8) 唐津スマートレジリエンス拠点構築事業企画調査等委託業務</p> <p>● 国の補助金が入っているのか。</p> <p>● コージェネレーションの機器を導入するということか。</p>	<p>のほう詳しいので、職員がサポートしながら情報発信を行なった。</p> <p>○ 経済産業省の補助金を100%活用している。</p> <p>○ 消化ガスを活用したコージェネレーションシステムの設備を導入し、発電と熱の供給という2つの事業を実施している。</p>
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ● それはガス発電か。 ● どうしてガスになったのか。 ● 何キロワット発電できるのか。 ● メタンガスを燃やすとCO₂が発生するのは。 ● 燃やす時のフィルターなどはどうなるのか。 ● 例えば環境問題というのであれば、ガスを燃やした後のCO₂はどうなっているのか。 ● 基本的にそこで発生するガスをほとんど回収できるということか。 ● 仕組みがよくわからないが、ガスを抜くということか。 ● 化学変化しながらガスを作るのか。 ● 新たに取り組むのではなく、既に25キロワット出力できるものが4基あるのを、5基増や 	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのとおりである。 ○ 浄水センターエリアについては、汚泥ガスの発生があるが、今まで使用せず捨てていた汚泥ガスを有効に利用するシステムとして導入を決定した。 ○ これまで25キロワットを4基導入しており、非常に効率がよかったので、25キロワットを1基追加し、合計5基になった。 ○ ガスを燃焼するとCO₂を排出する。 ○ フィルターというのは、一定基準に抑えているかという趣旨のご質問か。 ○ この導入をする以前から、ガスの排出に関してはしっかりと基準以内に抑えている。今回のシステムを導入することで、排出量自体も抑えることができ、また、もともとの設備があるので、それ以上になることはないということ導入している。 ○ そのとおりである。汚泥ガスはまだまだ余剰が発生する可能性があり、そこも予断なく見て行こうと思っている。 ○ 分離することになる。 ○ 化学変化ではなく、燃焼ガスとして、そのガス自体を利用して発電を行う。火力発電と言うと言い過ぎかもしれないが、大きく言えばそのような原理になる。 ○ 4基あるものを1基増やして5基にする。
--	---

<p>すということか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 5基に増えることで、人件費などは増えるということでしょうか。 ● 熱を燃やして電気を起こすということだが、タービンはいくつあるのか。 ● それで電気を作って、それを蓄電するということか。 ● 今後は、これらの施設を市の職員で運用していくということか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1基ごとにかかっていくという発想になる。 ○ 1基に1つである。 ○ 蓄電設備とも連携している。発生した電気の利用方法としては、蓄電池への蓄電もあるが、基本的に浄水センター用の電力として消費している。 ○ そのとおりである。維持管理については、上下水道局の浄水部門が担当することになる。
<p>(9) 唐津市沖洋上風力発電事業に関する理解促進業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 契約締結日は書いてないけれども、終わるのが令和5年3月20日まで…実際に6か月ぐらいか。 ● 業務内容の大半は市役所でできるのではないかと。例えば、漁業者等を対象とした先進地視察の企画立案及びアテンドとあるが、漁業者と話す時も、民間業者が行くよりも市職員のほうが話が進むのではないかと思うが、外部に頼まなければいけないものか。 ● 中立性ということだが、これは将来のために、日本の中で唐津も候補地に挙がっており、どちらかと言うと中立というよりも、推進するための取り組みが大切ではないか。推進するに 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 10月13日に契約締結したので、実質、6か月になる。 ○ 民間業者に委託する理由は、洋上風力発電事業に対して中立性を保つ目的がある。行政が主導すると、例えば講演会の講師の選定についても、偏った意識を植え付けようとしているのではないかといった先入観を持たれる恐れがあるといった事例が他所であったと聞いていたため、一旦、事業の中立性を保つために民間業者に委託した。 ○ ご意見のとおりである。

<p>あたって、漁業者の問題をどう解決するかということがそこにあると思う。今後、風力発電を使った海上養殖や海の再生、魚がどんどん増えるように産卵場所を増やすといった環境づくりなど、そういったことを一生懸命やるというようなことが必要ではないか。魚が獲れなくなっている中で、どうすれば魚が増えるのかといったことを考えていくべきではないかと思う。</p> <p>● 今後のスケジュール感はどうか。</p> <p>● 今までは唐津市の予算でいろいろな事業をやっているのか。</p> <p>● 唐津市が事業を行うということか。</p> <p>● お金は全部、唐津市が出すということか。</p> <p>● 洋上風力発電に適した地域として認められれば良いのかもしれないが、もしもだめだった</p>	<p>○ 現時点の状況としては、唐津市沖という海域の名称が2年前に国から認められ、準備に入った。次のステップとして、当該地域が洋上風力発電に適した地域であると選ばれる必要がある。その後、事業者が選ばれ、事業が進められる。現在は、この海域が本当に洋上風力発電に適しているかどうか、それは風の状況や海の状況だけではなく、地域の醸成具合なども踏まえた上で、国の選定に向けて準備を進める時期に入っている。国の選定までに早くても1年2年かかるのではないかと思う。更にその後、事業者の選定に3年ほどかかるのではないかと見込んでいる。</p> <p>○ 事業としては佐賀県がこの事業を進めることになり、唐津市としては、県の取り組みに対して地元としてやるべきことを事業化して取り組んでいる。先ほどのご意見にあった漁業者の件についても佐賀県と一緒にやっていく中で取り組んでいくことになるかと考えている。</p> <p>○ 地元として我々がやるべきことについては、唐津市で予算を確保した。</p> <p>○ 佐賀県も出している。</p>
---	--

<p>時に、唐津市だけがお金を出してというのもどうかと思う。国が有力候補地だと認めているというのであれば良いのかもしれないが。今後、しっかりした証拠固めができればよいと思うが。</p> <ul style="list-style-type: none">● 秋田は海岸のすぐそばに発電施設が見えており、景観上いかがなものかと思う。● 可能であればできるだけ見えない所、遠くであればいいのだが。景観面でも何か巨大なものが目の前にあるのはあまり好ましくないのでは。● 設置予定の位置はどのあたりになるのか。● 島の陰に隠れたらよいと思う。● 海岸から遠く離れていればよいと思う。	<ul style="list-style-type: none">○ 秋田はかなり近く、海岸から1キロ程度ではなかったかと思う。○ ご意見のとおりである。景観は大事であると考えている。○ 海域としては、馬渡島よりも北側から東のほうの海域が広がっているあたりになる。○ 馬渡島と松島の間ぐらいに少し見えるかもしれない。神集島までのエリアもあるので、全く見えないというわけではないと思う。○ そのあたりの距離感も含めて、まだ検討の段階である。
---	--